

# 「開かれた学校づくり」から発信



このコーナーでは、各園・学校の取組や様子をお知らせし、地域の学校としての情報発信をしています。地域の皆さんには、様々な取組にご理解とご協力をいただいておりますが、今後とも地域ぐるみで子どもの健全育成に関わってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

## 吾北中学校 国際交流講演会～SYD講座 「幸せの種まきキャンペーン」を行いました

9月8日に公益財団法人、修養団の方を招いて、貧困と共に生きる子どもたちの現状について学びました。修養団とは明治時代に現在の東京学芸大学の学生が中心となって設立した社会教育団体で青少年の健全育成を中心とした活動を行っています。

世界の人口64億人中、18歳未満の子ども人口が22億人、そのうち開発途上国で生活する子どもが19億人、貧困下で暮らす子どもの数は10億人、十分な住居がない子どもが6.4億人、安全な水に恵まれない子どもが4億人、けがや病気のとくに医療を受けない子どもが2.7億人に及ぶそうです。

講演では、フィリピンのパヤタスのゴミ処分場で暮らす子どもたち（スカベンジャー）の現状、またその子どもたちとの交流の様子や支援活動、ストリートチルドレン（都市の路上で生活している子ども、浮浪児）の現状や路上で倒れている人や病気で苦しんでいる人たちを救済するためにマザーテレサが開設した家の様子が紹介されました。

今回の学習では、発展途上国の国々で貧困の中で学校に行くことができずにいる子どもたちや、その日の食べる食事も一日1回あるかないかの暮らしをしていたり、一家の暮らしを支えている子どもたちの姿が紹介され、そんな暮らしの中で明るく精いっぱい暮らしている姿に驚かされました。特に、12歳のニーニャがゴミ拾いをしながら、7人の家族を養っているという話には驚かされました。

また、ストリートチルドレンだった少女がオーディションを受け歌っている話、その歌は物乞いをして小さな妹を養いながら暮らしているストリートチルドレンの男の子のことを歌った歌で、大変切ない心にしみる歌でした。

毎年、日本だけでなく世界各国から子どもたちの支援のために資金援助だけでなく、現地でボランティア活動をしている中高生や大学生も大勢います。

現在、修養団では企業の支援もいただいて、48名の子どもたちと8名の大学生への学資支援を行っているそうです。生徒会からは、今後の活動に役立ててもらおうように少しですが、支援資金を修養団の方にお渡ししました。

この講演は、国際交流とは何か、ボランティアとは何か、日ごろ私たちが当たり前生活している生活を振り返る大変良い学習の機会となりました。

